

Ⅱ 活動報告 ③

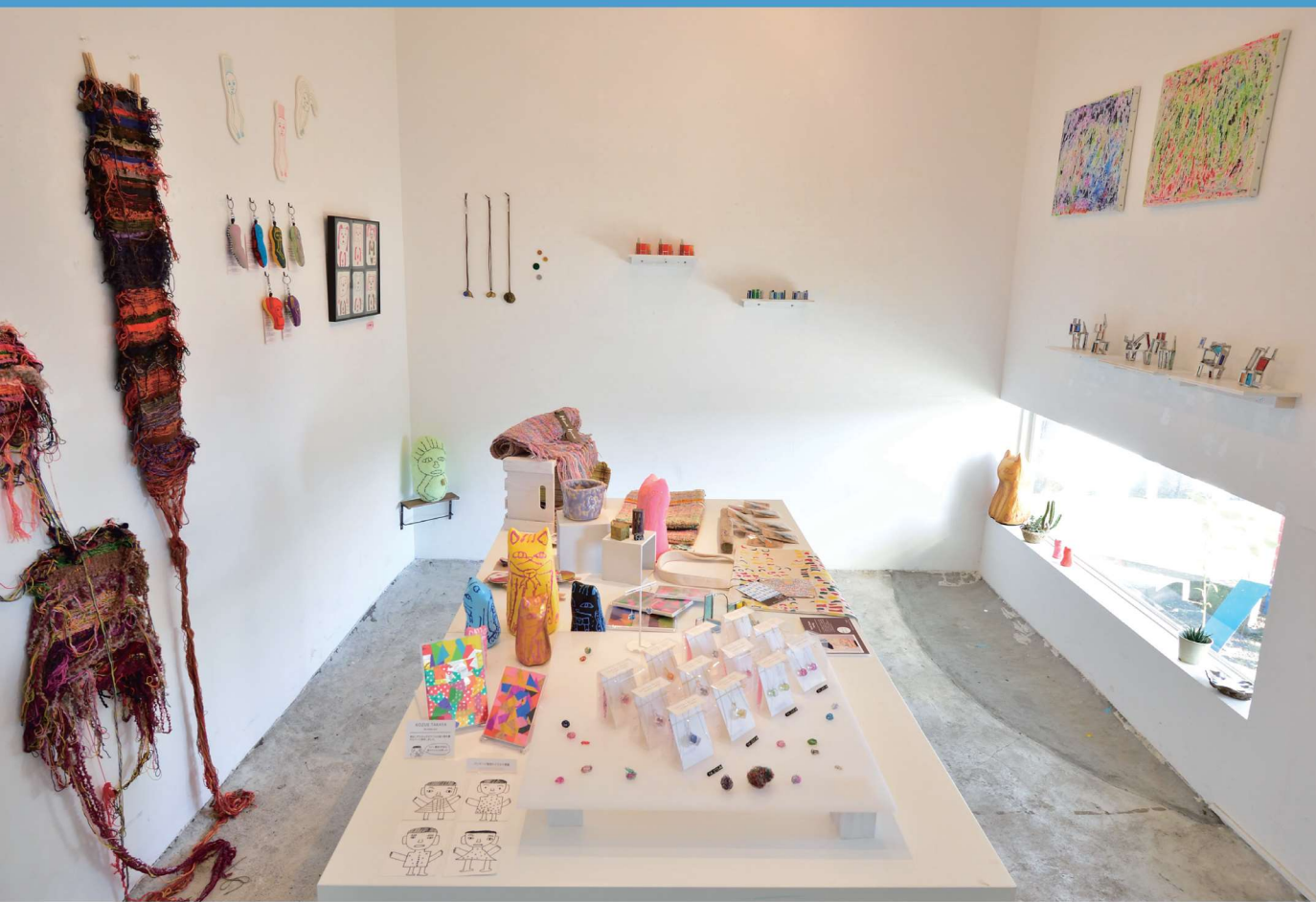
商品でつながる

TAMAP±O 支援力UPプログラム

商品化研修

↓グッズ展 + ライブパフォーマンス×5 &
ワークショップ×2





TAMAP±O支援力UPプログラム

商品化研修→グッズ展+ライブパフォーマンス×5&ワークショップ×2

何のための商品化？

— みんなで考え、表現の魅力を出会いに —

商品化は、表現活動を仕事にするための一つの手段。しかし、表現には、お金には変えられない価値があり、その価値となる魅力を探り高めることが、表現活動を支援する上ではとても大切です。とかく売れる商品を作ることに囚われがちですが、「何のための商品化なのか」を常に考えることで、それぞれの魅力をもって社会に新たな価値観を創出するようないき強い商品が生まれるのではないだろうか。

TAMAP±Oの商品化プログラムでは、その意識化を一番の目的に研修を実施。5月から9月まで月1回、グッズ研修会を開き、施設等で商品化に取り組むメンバーが協力委員でもあるコーディネーターのsora*on杉千種さんを交えて意見交換を重ね、各施設オリジナルのアートグッズを改良・開発しました。

そして11月、「UFU♥SAITAMA ±Oグッズムズ9」展を開催。商品の展示・販売のほか、作家のライブパフォーマンスやワークショップも行いました。



商品化研修

目的

「何のための商品化なのか」の意識化

施設オリジナルのアートグッズの

開発及びクオリティーの向上

グッズ展開（価格設定・流通・

商品管理など）の知識を学ぶ

グッズ展に向け、毎月の定例会にあわせグッズ研修会を実施。展示・販売もTAMAP±Oのメンバーが協働で行いました。商品の課題は、研修会で解決するのではなく、意見やアイデアと共に各施設等へ持ち帰り、周囲を巻き込み試行錯誤。また、研修会では、支援環境の悩みなども語り合い、各現場の意識改革にもつながる「支援力アップ」を目指しました。

〔企画会議メンバー構成〕
研修生

TAMAP±Oメンバー22名
アートセンター集スタッフ4名

アドバイザー コーディネーター1名



STEP 1 グッズ研修会

各施設等の商品や作品を持ち寄り、作家の特徴や創作の様子、商品の意図や課題などをプレゼン。



POINT

作家それぞれの表現の魅力を様々な視点から考察

みんなで商品の魅力を語り合い、魅力の生かし方、どこを改善したらいいかなど、アイデアを出し合い検討。



POINT

個々の利用者に合わせた創作やモノづくりの支援の工夫など各自が現場で培った知恵を交換

どんな表現を、どんなカタチで、
どんな人に、どこで、いくらで…

デザイン、素材、大きさ、配置、色、
パッケージ、ネーミング、説明書き…



POINT

表現活動の支援体制や活動への理解など現場での悩み・課題も相談・共有



STEP 2 それぞれの施設

研修会で得た課題やアドバイス、知恵を施設内で共有。試行錯誤を重ね、より表現の魅力を生かしたグッズを試作・制作。

POINT

商品化と共に各施設へ表現活動の意義、「何のための商品化なのか」などの意識も浸透

ステップ1と2を
何度も繰り返す

5回のグッズ研修会と施設での試作を繰り返し
オリジナルアートグッズを改良・開発



開発・改良のポイント



Point.1

何のために作るのか
商品の価値について考える

課題:「おれんじ」では、カレンダーを職員が手作りで制作。「もっと、ちゃんとした商品にしたい」。



何のために作るのか、誰に届けたいのか、どのように使ってほしいか…まずは、目的をしっかり持つことが大事!その目的により構成やデザイン、価格設定、部数が異なること。また、予算や時間などの制約の中でどこまで作れるのか、作ることで表現の魅力は生かされているか…商品化の意義やその価値を考えることが大切!



Point.3

都度、何が大切かを考える

課題:「わかくさ」では、ノートのパッケージに各作家のプロフィールカードを添付。「文字数や大きさなどを見直したい」。



表紙の絵を生かすことを第一に考え半透明の紙に変えてテキストを整理。



Point.2

表現の何が魅力なのかはもちろん
施設のカラーや強みも考える

課題:「ひだまり」では、窪山さんが描くユニークなイラストの一部をキャラクターとして刺繍した、クッションストラップや人形を制作。でも、布の素材感や縫製がイマイチ。



刺繍からステンシルプリントに変更。施設のリサイクル作業で出る「傘布」を活用したことで、色のレパートリーが増え、よりチャームングなグッズに生まれ変わった。



Point.4

施設のつながりをどう活かすかも考える

「いもの子」の技術(木工・印刷)を活かして
「工房集」とのコラボ商品を開発。



いもの子で制作する木製絵葉書(風景画)とは趣が異なる抽象画を採用したことで、スタイリッシュなグッズになり加工した木工班も感激!



columnアートの芽②

障害や福祉を魅力に

コーディネーター 杉千種 (contin)

まだまだ障害のある人たちと同じ街に暮らしていると実感される場面が多くない中、授産製品の販売所は彼らを知ってもらい、少数でないチャンスです。もしそこで見かけた商品がいまいちで、その印象が作り手たちのイメージとなってしまうたらもったいないなあと思います。

また、日々臨機応変に対応する福祉の仕事は、とてもクリエイティブです。個人を尊重し合って受け入れ、お互いに成長していける環境を目指すというような、支援の現場で大事にされていることは、広く現代において注目され求められるようになってきているのではないだろうか。

何のための商品なのか、誰に何を伝えたいのか。これらを思考しつづけることで、きつと、福祉施設だからこそその魅力がある商品、さらには社会へ未来を提案していく商品だって生まれてくるはずだ。

施設のモノづくりの現場も、また商品の魅力にも、スタッフ、メンバー、家族、地域の人、遠くのお客さん、どんどん巻き込まれる人が増えていったら良いなと思っています。





columnアートの芽③

まず、著作権を学ぼう

弁護士 岩本憲武 モツキンバード法律事務所

著作権者の権利には、「著作者人格権」と「著作（財産）権」の2種類があり、障害者のアート作品をグッズ化する際などには、後者が問題になります。これらの権利は、作品を創作したこと自体によって著作者に生じるので、登録などの手続は必要ありません。

著作（財産）権は、物としての作品の所有権とは別に譲渡が可能であるため、著作（財産）権を他人に譲渡すると、たとえ著作者でも作品を自由に利用できなくなります。そこで、著作（財産）権は譲渡せず、著作物の利用を他人に許諾するという方法がありますが、その場合も、契約書を作成し、事前に弁護士などのチェックを受けて、著作物に対する障害者の権利が不当に侵害されないようにすることが重要です。



TAMAP ±〇の定例会では11月、障害者アートマネジメントセミナー企画「著作権はコウくない！」を開催。メンバーなど14名が、岩本先生から著作権について学びました。

U F U ♥ S A I T A M A 土 〇 ツグズムズ9展

— 作家とつながる“出会い”がいっぱい! —

2016.11/1～11/13 @川口市・工房集



↓ P 73

研修で改良・開発した商品をはじめ15団体約323アイテムの個性的な商品が一堂に会し、活気ある展覧会になりました。来場者の感想は

そこでグッズ研修の一環として開いた「U F U ♥ S A I T A M A 土 〇 ツグズムズ9」展では、商品の展示・販売に加え、5人の作家によるライブパフォーマンスと2人のステンドグラス作家によるワークショップも開催。また、一部の原画や織物の作品なども展示しました。

表現を仕事として社会に広げる手段は、商品を作ることだけではありません。商品が、作家と人をつなぐ道具だとすれば、その展示・販売は、作家と人を結ぶ「出会いの場」。商品と共に表現の魅力を伝える機会を作ること、表現を生かす大切な支援です。



工房集を会場に、コーディネーターのアドバイスのもと、壁や棚のほか天井や窓辺にも商品一点一点の「顔」が見えるように展示。クスッと笑えたりホッとできたり…心に響く多彩な個性が主張しながらも調和して、明るく温かなパワ—あふれる空間に。



来場者数
720人

出展商品 323種 (15団体)

(アトリエ見学ツアー 20名、カフェ利用 262人)



ライブパフォーマンス&ワークショップ

より広く、笑顔あふれる



出会い交わり、
未来をつくる

グッズ展で開催した作家のライブパフォーマンスは、ただ作品を制作する様子を見せるイベントではありません。参加者との対話しながら即興で作品を生み出す、ちょっとしたレハルの高いパフォーマンスです。

今回、5人の作家が、参加者との会話からインスピレーションを得て、絵を描いたり、言葉をしたためたり、漫画を創作したりと、出会いによる表現を披露。来場者も一緒に作家と参加者とのやりとりを楽しみ、笑顔あふれるイベントになりました。初めは緊張していた初挑戦の作家も、参加者と会話を重ね、次第にリラックスする姿が見られました。

また、ワークショップでは、ベテランのステンドグラス作家2人が指導。元気な子どもたちも夢中で色とりどりのパーツを組み合わせ、フォトフレームなどを制作しました。

作家 LIVE episode 2

ぼやきと詩のバトル!?

県内の障害者施設に通う岡崎龍馬さん。最初に見に来たキックオフ展では、アーティストトークで率直な感想を伝え場を盛り上げてくれた。そして今回は、なんとライブパフォーマンスに参戦! 「あなたのことをぼやいてみせよう」と看板を掲げる金子隆夫さんに自作の詩で先制攻撃! 一瞬、怯んだ金子さんだが、さすがライブのベテラン。いつもの調子でぼやき返し! 突然の白熱したバトルに、また場が盛り上がった。タイプの違う2人だが、想いを綴り伝え合い、とっても楽しそう。



そこは生きた情熱工房だった。皆が創りたくて作っている所。互いに意識しているようないないような不思議な共有空間。私は「工房集」で自由な熱気、悩んだからこそ生まれた個性の翼に触れ、こんな生き方もあるのだと知った。あの笑顔には今までに出会った優しさが表れていた。
「人の色 心くすぐる 美しさ」 岡崎龍馬

* 後日届いたメッセージ *



5人のアーティストが対話から作品を創作!



会話からサッと人柄を捉えた言葉を綴り、似顔絵を描いて「ぼやき」作品完成!



ユーモアと思いやりと含みある言葉が詰まった「ぼやき集」『生きるための名言集』が好評。現在6冊。トートバックは新商品。



11月3日(木・祝) 13-15時 参加費1,000円 参加者6名

早いもので、もう12回目を迎えたライブパフォーマンスで、毎回緊張するけど、わざわざ来てくださっているのだからがんばらなくてはと思っています。その相手のことを色々聞いて、その人にあった内容を聞くようにしています。色々な出会いがあって、僕も今まで色々な事があつたけど、まだまだ色々な人がいるんだなあと思うこともあります。毎日書いていた日記がこんなことになるなんて思ってもいなかった。でもやるからには「全国制覇」をめざして毎日コツコツ頑張っています。

工房集 金子隆夫さん

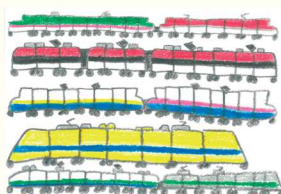
「僕がひとつ、あなたのことをばやいてみせましょ」

心に沁みる「ぼやき」で大人気!



お客さんに選んでもらった色画用紙に、大好きな電車を描くライブイベントを披露!

11月3日(木・祝) 13-15時 参加費500円 参加者8名



小さい頃からずっと描いていた電車の絵。この絵が人と人の出会いをつくってくれたことに感謝の気持ちです。自閉症ですが、人が好きな息子の世界が広がるように思いました。最近語彙が増えてきています。今回参加させていただき刺激になったようです。(母)

おれんじ 中村愛之助さん

「電車大好き! 描いちゃいます」

初ライブながら大盛況!



会話からお客さんのオリジナルキャラクターを創作。特徴を捉えたキャラが大評判!



人気のギャグストーリー漫画

11月5日(土) 13-15時 参加費1,000円 参加者7名

今回で2回目となる、レインボーコミカルライブ。なんと今回は、お客さんが7名来たのでそれぞれ特徴が違うキャラクターを7人描いてみました。会話を聞きながら描くのが、とても楽しかったです。自分が書いたキャラクターは次回以降の漫画で登場するかもしれないので、楽しみにしてください! レインボーレンズは新作の10巻が発売中です。

工房集 関 翔平さん

「レインボー」
「コミカルライブ」

あなたの似顔絵が、漫画に登場します!



「あつぱれ人生！」

工房集 関口忠司さん

素直な言葉を
筆に乗せて

日頃からなんとなく耳に残る言葉や身近な人の口癖、ひらめきや思いつきのことを自分の中に溜めていきます。ひとたび筆を持てば人当たりのいい笑顔が真剣な表情に変わり、心温まる言葉から何かを考えさせられるような深い言葉まで、力いっぱい書かれたくせのある字で表現してくれます。イベントでは、お客さんとの会話の中からイメージを膨らませます。思わず微笑む言葉のチョイスと関口ワールドの一片をお客さんにも感じてもらえたいと思います。(スタッフ)



手にこもる力は気持ちのあらわれ。
作品が完成するのが待ち遠しい。



「カクテル」「リアルタイム」などの
作品集が人気!

11月13日(日) 14-16時 参加費1,000円 参加者7名

「誰もがみんな ヒゲめがね」

ポップで
ユニークな
似顔絵
バックが好評!

わつくす ヤマダジュンヤさん

リラックスしている表情を描きたい。「来てよかった」と思ってもらえる時間にしたい。そうしながら自分のトークの腕も磨かれて、絵も進化していくのだと思う。



すべての人を「ひげメガネ化」してしまう似顔絵は、もともとこだわって描いていたモチーフをパフォーマンスに活かしたものだ。トートバックやスリッポン(布靴)に手描きした「ひげメガネおやじ」グッズは、彼の定番作品。



11月12日(土) 13-15時 参加費1,000円 参加者5名

2人のステンドグラス作家が子どもたちに制作を伝授!

ステンドグラスの フォトフレームを作ろう!

工房集 長谷川昌彦さん 三羽勇一さん

ステンドグラスの制作過程で出た端材を使って透明なガラスの周りに好きな色・形のガラスを組み合わせてフォトフレームを作りました。普段はアクセサリ作りをしている長谷川さんとランプや小物を作っている三羽さんのベテラン2人が、細かい工程を実演と共に丁寧に教えていました。



正円に削りだされた「ガラスコイン」と呼ぶ長谷川さんの作品を活かし、アクセサリ作家とのコラボ作品も。



切り方や形に個性が出るステンドグラス。2人の指導のもとカラフルなパーツを組み合わせて作品を制作。

11月6日(日) 13-16時 参加費3,000円 参加者5名

商品化研修 TAMAP±メンバー感想

■商品化研修による気づき

- ・商品を良くするには周囲とどこん意見を交わすことが大事。
- ・1回出来たら完了ではなく、ベストは何かを定期的に話し合う場を設ける。
- ・関係者の力量・熱量次第で商品は良くも悪くもなる。
- ・どんなものを作り、どこで、誰に売るのが考えることの大切さ。作る過程で商品価値を見出すこと。
- ・特定の職員だけでモノづくりを考えるのではなく、施設の職員全員でモノづくりを考えることが大切。
- ・商品は名前やパッケージなど細やかなところまで考える必要がある。
- ・障害のある人が作っているという事の意義について考えることができた。

■グッズ研修会について

- ・定期的に開催された会議のおかげで常に意識を高いところにおけた。
- ・必ず一部を改良して会議に出るという目標を掲げていたため、商品を検討する機会を頻繁につくれた。
- ・さまざまな意見・アドバイスを受けることで、自分に欠けていた視点や新たなアイデアに気づかされた。
- ・参考になる意見をもらい、施設間で課題を共有することで、視野が広がられた。
- ・他施設の取り組みの姿勢に刺激を受けることも多く、モチベーションがアップした。
- ・商品の見せ方の、具体的なアドバイスがもらえたので、実践しやすかった。
- ・商品化の照準を考える機会を得て、作家の持ち味を

活かしたモノがどう形になるのかを、自分なりに確信できた。

- ・懸命に取り組んだことで商品に愛着が生まれ、広報活動にも意欲が湧いた。
- ・話し合われたことを共有し合うことで、利用者も間接的にはあるが参加することができた。
- ・客観的な意見を取り入れることで、取り組み内容を整理しやすくなった。
- ・施設外に仲間との関係を築くことで、当事者を主役としたアート活動の方向性や意味について考える機会も増えた。

■グッズ展による気づきや変化

- ・全く知らない人が純粹に作品を気に入り手に取ってくれるのを見た時、本当にうれしく感動した。今までは、売れる事、収益ばかりを考えがちだったが、本当に商品を気に入って買ってもらう幸せな気持ちを体験し、自分が作品・商品をより大切に扱うようになった。

- ・TAMAP±メンバーの後押しで、売れるかもという期待を持てるようになり、他職員や作家に製作協力を依頼でき、売れたことを、関わった人たち全体で喜べた。

- ・作者が会場に足を運び、周りから声をかけてもらえたことで、普段あまりみられない笑顔で写真に写っていた。

- ・アートグッズとして製品が売れていくことを知り、製作者の意識も変化した。

- ・他部署職員にも見学ツアーを組んでもらい、興味を

持つてもらえた。

- ・理事長や施設長も展示会に足を運び、商品を購入していた。
- ・これまで取り組んだことがない事でも、やればできると職員が感じはじめた。
- ・商品が売れて実績になった。

■今後の課題・展望

- ・今後も利益ばかり追求して作者を置いていくことのないようともに進めていきたい。
- ・制作できる量、職員による作業負担、販売できる数などを考慮して、無理なく続けていきたい。
- ・価格設定の見直しや作家が関われるワークショップ、ギフトの提案などをしていきたい。
- ・売れる商品を開発して当事者に還元するためというスタンスにとどまらず、当事者にとってより意味のある活動に大きく広がることを期待している。
- ・自分の施設のためばかりを考えるのではなく、新たな参加者にバトンを渡すような気持ちで参加していきたい。
- ・どうやって他の職員も巻き込んでいくかを考えていきたい。

